

阿賀野川自然再生検討会（第4回）

議事要旨

【開催概要】

開催日時： 平成25年10月7日（月）13:30～16:25

開催場所： 阿賀野川きょうがせ防災ステーション

【議事次第】

1. 開会
2. 現地視察
 - ・ 焼山地区ワンド再生予定箇所
 - ・ 満願寺地区河道掘削箇所
3. 議事
 - ・ 第3回阿賀野川自然再生検討会 議事要旨
 - ・ 阿賀野川自然再生計画書（報告）
 - ・ 満願寺地区河道掘削モニタリング結果速報（報告）
 - ・ 第1回焼山地区ワンド再生懇談会結果（報告）
 - ・ 焼山地区ワンド再生の進め方について
 - ・ その他
4. 閉会

【審議内容】

事務局より、第3回阿賀野川自然再生検討会議事要旨、阿賀野川自然再生計画書（報告）、満願寺地区河道掘削モニタリング結果速報（報告）、第1回焼山地区ワンド再生懇談会結果（報告）、焼山地区ワンド再生の進め方について、説明を行った。議事の内容は以下の通り。

（1）阿賀野川自然再生計画書（案）（H25.2）について

- 1) 早出川はその名のとおり、流れの速い河川という特徴があり、かつては砂礫河床が多く、カマキリ、アユカケ、カジカ、アユ、サケ、カワヤツメ、スナヤツメなどが生息していた。緩流域の指標については、「ミクリ等、多様な生物群集」という表現でよいが、流れの速い場を指標する種も追加してはどうか。
→ 検討する。
- 2) 「早出川」は上流まで含む表現なので、「善願橋より下流の早出川」等にしてはどうか。
- 3) 自然再生は、工事完了で終わる事業ではない。試行・モニタリング・整備方法の見直し等の順応的管理を続けていくことが重要である。そのため、自然再生計画は（案）が付いた名称でよい。
- 4) 阿賀野川での「トミヨ」については、「淡水性のトミヨ」という表記としてはどうか。

（2）満願寺地区河道掘削モニタリング結果速報について

- 1) 「トウヨシノボリ」については、最近名称「クロダハゼ」に統一してはどうか。
- 2) 地盤高が高いため、もっと掘り込み、ワンドと本川が頻繁につながるような形状に修正する方がよい。その際は、池間をつなげ、下流側で本川とつながる形状とすること。

(3) 焼山地区ワンド再生の進め方について

●生態系

- 1) 昔は河原が広がり、日常生活に川を必要としたが、現在は樹林化が進み、日常生活では川を必要としなくなった。まずは人々に川の本래の姿を知ってもらうモデルとして、焼山地区のようなワンドを再生することに意義がある。
- 2) 今後、水が入ってきて、植生が安定してくる過程（何が平衡状態なのか）について議論する必要がある。水位変動を考慮し、将来の植生状態を予測することで、植生管理を軽減できるのではないか。
- 3) 魚類の観点からは、木陰が少ない。木陰があることにより、水面に虫が落下し、魚類の餌になる。7～8月頃に、ウグイやオイカワなどの稚魚がワンドで成育する際には木陰があった方がよい。
- 4) 焼山地区は中流から下流への移行点にあたる景観があり、冬になれば鳥も観察できる。床固や魚道もあり、要素に富んでいる。外来魚が移入しなければよいが。
- 5) イメージ図の水面幅 20m 程度の場所はヨシ原になってしまう可能性がある。昔のワンドはもっと単調だったため、複雑な縦断形状とせず、水面を広げた方がよい。自然の営力にまかせれば、植物の生育条件の良し悪しで自ずと縦断的な凹凸は形成されるだろう。

●地域との関わり

- 6) 国が子ども達を募集して行う観察会もよいが、地域が自主的に実施していくことが大事であり、事業の成否は地域住民との連携がカギになる。松浦川（九州）の「アザメの瀬」などを参考にしているかどうか。
- 7) 地域からの要望については、全てを受け入れるということではなく、生物多様性復元の趣旨を鑑みて検討する必要がある。
- 8) 生活様式が大きく変化し、復元が容易ではない現実がある中では、能動的に行動してもらえない場だと人々は川に訪れない。地域住民に利用していただけるよう散策路や駐車場といったものもあってよい。
- 9) かつての川遊びや川と暮らしのつながり等の体験談を自然再生計画書にコラムとして、追記してはどうか。
- 10) 堤防が冬のスキーや夏の芝ソリ遊びができる斜面となれば、自然と子ども達が遊びに来るようになると思う。
- 11) ワンドが再生されれば、野鳥の観察会にも利用されるようになると思う。ただし、人が多く訪れる場合は、猟銃禁止区域の指定を検討する必要があるだろう。

(4) その他

- 1) かつて、阿賀野川周辺にも飛来していたが、環境変化等の影響で個体数が減少し、近年見られなくなっていたシジュウカラガンが、今年の冬に阿賀野川の小杉地先や赤塚地先、福島潟に飛来するようになった。近年、繁殖地の個体数が回復してきたので、生息域が南に拡大してきたと考えられる。

以上

【議事要旨に関する問い合わせ先】

阿賀野川自然再生検討会 事務局

阿賀野川河川事務所 事業対策官 日野 充人

TEL : 0250-23-4461

Mail : hino-m84tn@hrr.mlit.go.jp